

エフゲニー・ザラフィアンツ

Evgeny Zarafiants

ピアノリサイタル

ピアノの詩人



叙情あふれる深い響き

華麗なるロシアピアノニズム

ノクターン 第13番 ハ短調 Op.48-1 (ショパン)

ピアノソナタ 第2番(葬送行進曲つき) (ショパン)

マズルカより (ショパン)

幻想曲 ハ長調 作品17 (シューマン)

愛のワルツ Op.57-5 (モジュコフスキー)

エレジー Op.3-1 (ラフマニノフ)

ペトラルカのソネット 104番 (リスト)



2005年音楽の友での21世紀の名演奏家事典にて世界の注目されるピアニスト100人の中のひとり。

2012年 **11/25** (日)

午後1:30~3:00 (開場1:00)

会場:もみの木ホール(東金駅徒歩5分)

前売り4000円(当日4500円)

全席自由席

主催:もみの木ホール

後援:つくも合唱連盟

お問い合わせ 090-4935-4469(ミヤマ)

090-5329-2016(トヨムラ)





エフゲニー・ザラフィアンツ EVGENY ZARAFIANTS

1959年ロシア共和国のノヴォシビルスクに生まれる。音楽家の両親のもとで育ち、6歳からピアノを父に学び、8歳からはモスクワ音楽院附属中央音楽学校でエレナ・ホヴェンに師事、幼少より天才的な才能を發揮し、1975年にはグネーシン音楽学校に進む。

しかし、青年の純粋さゆえに招いた不本意な出来事に遭い、南ウラルのオルスクへと移され、モスクワ音楽院への道が閉ざされるという悲劇を味わっている。

1979年にはオルスク音楽院を首席で卒業するが、一切の演奏活動の機会是与えられなかった。

1980年ゴーリキー市のグリーンカ音楽院に再入学、首席卒業後、大学院でも研鑽を重ねている。ここではイリヤ・フリートマンに師事。この間、全ロシアコンクール、ラフマニノフコンクール等で入賞し、ようやくロシア国内でのリサイタル、協奏曲の演奏会を行うようになったが、その素晴らしさが国外に伝えられることはなかった。

ザラフィアンツの名前がようやく人々に知られるようになったのは、1993年ポゴレリッチ国際コンクール（アメリカのカリフォルニア州パサデナ）で第2位となった以降のこと。以来住居はクロアチア共和国に構え、ドイツや日本を中心に演奏活動を行っている。

日本には1997年秋以来、度々来日し、東京をはじめ全国各地でコンサートや公開講座を行っている。

2004年ロシア・フィルハーモニー交響楽団（アレクサンドル・ベデルニコフ指揮）と、チャイコフスキーピアノ協奏曲第1番を共演する。2005年チェコ・プラハ管弦楽団（武藤英明指揮）と、ベートーヴェンピアノ協奏曲第3番を共演。また、2006年ザグレブ・フィルハーモニー管弦楽団（ユハネス・ヴィルトナー指揮）とラフマニノフピアノ協奏曲第2番を共演し、室内楽の分野でも力量を發揮し、2007年ザグレブ弦楽四重奏団とシューマン、ブラームスのピアノ五重奏も絶賛を浴びた。

2007年には来日10周年記念イベントとして東京紀尾井ホールにてリサイタル、スーパーワールドオーケストラとベートーヴェンピアノ協奏曲第3番をはじめ、各地で公演し益々巨匠性を發揮している。

2006年より、ザグレブ国立音楽院講師に就任。レコーディングも活発に行っており、日本ではALMレコード（コジマ録音）より15枚のCDをリリース。毎回、レコード芸術（月刊誌）では特選盤をはじめ、高い評価を受けている。

さらに、ナクソス(NAXOS)からも3枚のCDをリリースし、特にスクリャービン前奏曲全集の中の「前奏曲第1集」は、イギリス・グラモフォン誌の月間ベスト10に選ばれるなど、常に注目を浴びている。

2005年音楽の友での21世紀の名演奏家事典にて、世界の注目されるピアニスト100人に入るなど、ザラフィアンツの聴衆の魂を揺さぶる精神性の高い演奏は、毎回大きな感動を与え、熱烈なファンを増やし続けている。